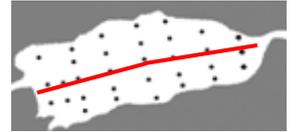


# 2024年1月 宍道湖 塩分・溶存酸素

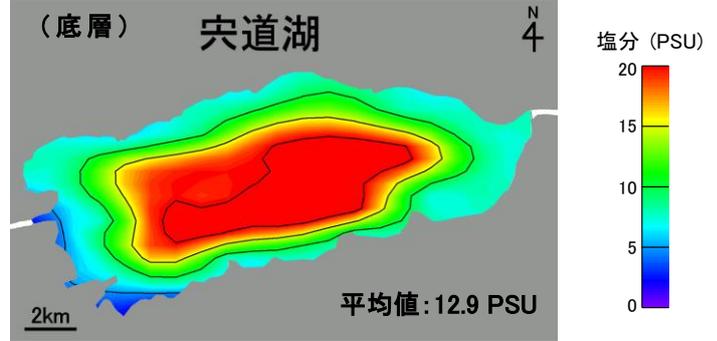
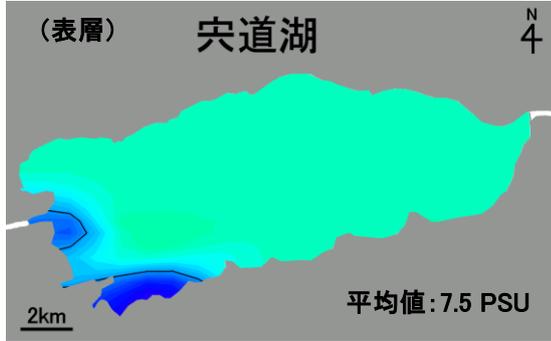
水域	調査日	天候	海況	水温 (表層平均)
宍道湖	2024年1月16日	曇り	北 5 m/秒 → 北西 3 m/秒	6.5℃

● 調査地点 — 鉛直ライン



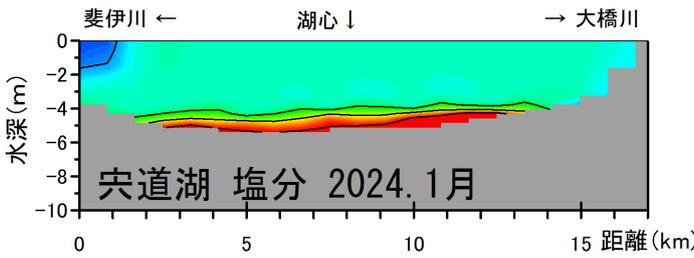
調査定点図

## ● 塩分 水平分布 (表層:左、底層:右)



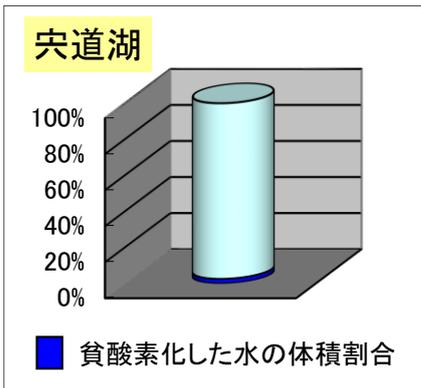
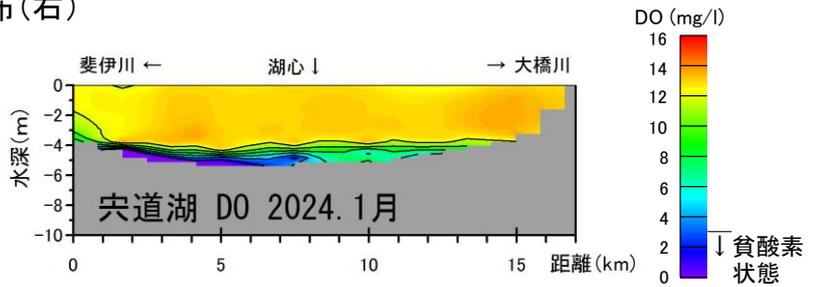
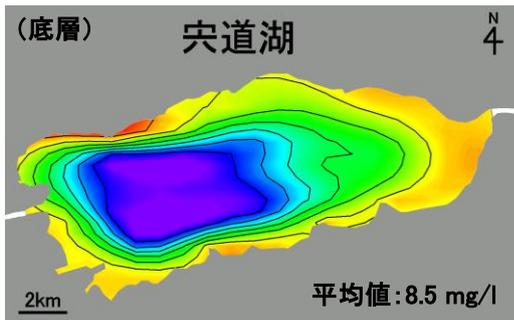
※塩分濃度のスケールは2020年6月より変更となっています。過去と比較する際はご注意ください。

## ● 塩分 鉛直分布



表層塩分の値は、斐伊川河口と宍道地区を除き、宍道湖のほぼ全域で大きな差は見られませんでした。底層では、湖中心部の深場で高塩分が確認され、20 PSUを上回る地点も見られました。また、水深4.5m付近には塩分躍層が形成されていました。平年値と比較すると、表層・底層ともに平年を大きく上回っていました(『R5年度水質状況』を参照)。

## ● 溶存酸素 水平分布(底層:左)と鉛直分布(右)



溶存酸素濃度は、湖心より西側の4m以深の地点において、底から1m未満の層で低い値を示しました。貧酸素化は11月時点ではほぼ解消されていましたが、今月は増加していました。これは強い塩分躍層の形成により、水の循環が抑制されたためだと推測されます。3mg/l未満の貧酸素水の体積割合は2.6%、湖底面積に占める貧酸素水の割合は21.8%でした。貧酸素水体積割合は、平年を大きく上回る値となりました(『R5年度水質状況』を参照)。

● R5 年度水質状況

